

現在の景気：県内景気は、全体として持ち直しの動きが続いている。行動制限の緩和以降、観光や飲食等の対面サービス業種が引続き回復基調にあるほか、百貨店の季節物衣料などの販売も上向いている。製造業では、コスト高の影響がみられるが、世界貿易回復などに支えられた改善基調を概ね維持している。この間、建設需要も、交通インフラ整備や物流施設などの官民プロジェクトの進展や都市部を中心とした堅調な住宅ニーズなどを背景に、底堅く推移している。

3 か月程度の見通し：感染が再拡大しつつあり、対面サービス業など非製造業の業況は、今後の行動制限の有無等に大きく左右される。この間、製造業では標準シナリオでは改善基調が維持される見込みだが、ウクライナ情勢長期化によるエネルギー価格の上昇など、世界貿易の下振れリスクを十分に注視する必要がある。

個人消費：①上向き。②5月の県内百貨店（存続店ベース）の売上は、前年同月比 12.9%増と 7 か月連続で前年を上回った（2019 年比は 9.5%減）。外出機会の増加や気温上昇などから、夏物商材の動きが目立った。ラグジュアリーブランドや時計・宝飾などの高額商品の売れ行きも好調。中元商品の販売が開始され、盛り上がりを見せるなど、6 月入り後も順調。5 月の自動車登録台数は同 14.1%減と、11 か月連続で前年を下回った（2019 年比は 36.5%減）。半導体や部品の供給不足などによる減産の影響で、一般乗用車（前年同月比 15.3%減）、軽乗用車（同 12.9%減）ともに前年を下回った。

住宅建築：①増加基調。②5月の新設住宅着工戸数は前年同月比 1.4%増加し、2 か月連続で前年を上回った。持家（同 14.5%減）、貸家（同 10.9%減）は減少したが、分譲（同 32.4%増）が増加した。

設備投資：①堅調。②国土交通省の「建設着工統計」（非居住用）によると、5 月の工事床面積（年度累計）は前年度比 20.9%減少し、工事予定額も同 39.2%減少した。千葉経済センターによる県内企業 179 社アンケート調査（4 月実施）では、22 年度の期初計画は、21 年度実績額を 89.3%上回っている。

公共工事：①横ばい圏内。②5月の県内公共工事請負額は、前年同月比 16.5%減少した。独立行政法人（同 45.3%増）、県（同 24.3%増）は増加したが、市区町村（同 43.1%減）、国（同 3.8%減）が減少した。

輸出：①増加。②5月の成田、千葉、木更津 3 港合計通関輸出額は、前年同月比 22.2%増と 15 か月連続で増加した（2019 年比は 60.6%増）。成田空港では、半導体等製造装置（前年同月比 12.2%増）や科学光学機器（同 8.8%増）を中心に、同 18.8%増と 15 か月連続で前年を上回り、5 月としては過去最高となった。千葉港は、石油製品（同 792.6%増）や鉄鋼（同 53.5%増）などの増加により、同 81.1%増と 13 か月連続で前年を上回った。木更津港は、鉄鋼（同 84.2%増）などの増加により、同 70.1%増と 14 か月連続で前年を上回った。

生産活動：①足踏み。②4 月の県鉱工業生産指数（季調済）は、91.1（前月比 0.8%増加）と 2 か月連続で小幅増加した。汎用・業務用機械（同 14.4%減）、金属製品工業（同 0.5%減）などが減少したが、鉄鋼業（同 9.7%増）、化学工業（同 7.6%増）、食料品工業（同 3.7%増）などが増加した。

観光：①持ち直し。②観光・宿泊施設の入り込みは個人客を中心に持ち直しつつある。県内宿泊施設では、夏季ハイシーズンの宿泊予約が始まっており、予約ペースは新型コロナウイルスの感染再拡大に水をさされつつも総じてみれば、なお堅調に推移している。観光需要の喚起継続のため、旅行・宿泊優待事業「千葉とく旅キャンペーン」の 7 月 14 日までの期間延長（当初は 4 月 28 日まで）が発表された。

雇用情勢：①回復基調。②5月の有効求人倍率（季調値）は、前月比 0.01 ポイント上昇の 0.95 倍と、5 か月連続で上昇した。有効求人数（同 2.9%増）の増加が有効求職者数（同 1.0%増）を上回った。

【トピックス】

- 県北西部（市川市、船橋市、松戸市等）で雹（ひょう）による農業被害が発生した。被害額は特産物の梨を中心に少なくとも 17 億円余りに上るとみられている（6 月 3 日）。
- 千葉銀行の米本努頭取が全国地方銀行協会の会長に就任した（6 月 15 日）。
- 電力逼迫への対策として、老朽化により停止されていた火力発電所「姉崎火力発電所」（市原市）が再稼働した（6 月 30 日）。